



▼被災地支援で開催した仙台フィルハーモニー管弦楽団による弦楽四重奏



同コンサートは、同楽団のボランティアで実施され、熊本の音楽愛好家などがつくる「くまもと音楽復興支援100人委員会」がコーディネート。本町では、バイオリン、チェロ、コントラバスの弦楽四重奏がバツハの「G線上のアリア」や「上を向いて歩こう」など全8曲を演奏し、来場者は、美しいハーモニーに耳を傾けました。

コンサートの最後には、災害に負けず故郷を大切にしていこうという想いを込めて、演奏に合わせて来場者全員で「ふるさと」を合唱しました。

心に響く復興への調べ

仙台フィルハーモニー管弦楽団コンサート

3月9日（木）町生涯学習センターで、仙台フィルハーモニー管弦楽団コンサートが開催され、住民など約100人が来場しました。

同楽団は宮城県仙台市のプロオーケストラで、東日本大震災の被災地では復興コンサートを開催しており、熊本地震においても、演奏会で義援金を募るなどして被災地を支援しています。

本町の防災力強化を推進

日本損害保険協会から消防ポンプ付自動車

3月6日（月）町役場で、小型動力ポンプ付軽消防自動車の受納式が行われました。

寄贈された（一財）日本損害保険協会は、社会貢献や防火事業の一環として地域の消防力強化・拡充に貢献することを目的に、全国自治体に小型動力ポンプ付軽自動車を寄贈。今までに2,895台を寄贈しています。

式典では、同協会熊本損保会の大塚竜二会長から奥名克美町長に目録を贈呈。奥名町長は、「本町の防災力強化に役立てていきます」とお礼を述べました。



▲大塚熊本損保会会長（写真左）から奥名町長へ目録を贈呈



▲震災復興応援メッセージを送る高崎健太郎投手

応援メッセージで本町を激励

高崎健太郎投手（八丁区出身・横浜 DeNA）

熊本地震から1年として、本町出身のプロ野球選手・高崎健太郎投手（八丁区・横浜 DeNA ベイスターズ）から本町へ応援メッセージが寄贈されました。

高崎投手は2007年に同球団に入団し、先発投手として活躍。熊本地震により大きな被害を受けた本町に向けて、震災復興を願う応援メッセージ入りの色紙をいただきました。

高崎投手は「昨年はチームに貢献できず、不甲斐ないシーズンでした。今季は、与えられたポジションでしっかり結果を残し、チームの勝利に1つでも多く力になり、そして優勝に貢献できるようがんばります」と意気込みを語りました。

花を見て元気になってね

白旗小児童が仮設団地にプランター贈呈

3月16日（木）、白旗小学校（岩下勇治校長100人）4年生が白旗仮設団地を訪問しプランターを入居者に配布しました。

同小では、熊本地震で被災した同団地入居者に元気になってもらうことを目的に、これまで2回にわたり児童たちが種から育てた花苗をプランターに植えて同団地を訪問し、団地入り口に設置する活動を実施。今回は、希望のあった15世帯を訪問して配布しました。

同団地入居者は、プランターを受け取ると「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えました。



▲白旗仮設団地入居者にプランターを贈呈する児童



▲メッセージ入りの旗を交換する両校の代表者

甲佐中での思い出忘れない

乙女小児童と甲佐中生のお別れ会

3月16日（木）甲佐中学校（井上幸三校長231人）で、同中生徒と乙女小学校（上杉奈緒子校長121人）児童とのお別れ会が行われました。

同小は、熊本地震により校舎や体育館が使えなくなり、学校が再開した5月9日（月）から同校舎を間借りして授業を実施。復旧工事がほぼ完了した3月21日（火）から母校に戻りました。

児童と生徒約350人が参加したお別れ会では、乙女小代表児童が、「私たちが温かく迎えていただったことは決して忘れません」と謝辞。約10か月の共同生活を写真で振り返り、感謝の気持ちを写し、寄せ書きした旗を交換しました。

世界で輝く縄跳びの技

甲佐小で縄跳びパフォーマンス



▲甲佐小体育館で開催された縄跳びパフォーマンスで、縄を2本使う「ダブルタッチ」を披露する渡邊さん、田口さん、岡本さん

2月23日（木）甲佐小学校（赤星法真校長175人）で、「震災復興応援ボランティアなわとびパフォーマンス」が開催されました。

同イベントは、ギネス世界記録保持者で2015年ワールドジャンプロープフランス大会優勝者の渡邊貞典さん、シルク・ドゥ・ソレイユなわとびアーティストで13年にわたって世界各国で公演を行った田口師永さん、2015年なわとび世界大会 Wheel 部門優勝者の岡本悠さんの3人が熊本地震で被災した児童たちを励ますために、ボランティアで開催。同小体育館で、縄跳びパフォーマンスと指導を行いました。

パフォーマンスでは、1本の縄を使う「フリースタイル」、2本の縄を使う「ダブルタッチ」で3人の息の合った技をトークを交えながら披露。児童たちは、慣れ親しんでいる縄跳びとは一味違った技に目を輝かせました。パフォーマンスの後は、1本の縄を腕に絡ませてできる技や上手に長く縄跳びができることを指導。児童たちは、新しく発見した縄跳びの魅力を楽しみました。